

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○5月26日～

先週は波乱なくG7(財務相・中央銀行総裁会議)が終わり、特に為替の話も出ませんでした。

しかし、23日にトランプ大統領がEUとの貿易交渉が進展していないとして、EUからの輸入品に6月1日から50%の関税を課すと表明。

さらに、アップルに対して米国内で製造されていないインド製などの iPhone について25%の関税をかけると言ったことなどから相場はリスク回避的な動きが強まりました。

今月末から来月にかけて、各国との貿易交渉の進展がどうなるかによって、マーケットは再び乱高下する可能性があります。

4月前半を底に順調に上昇してきた米国株や欧州株にも逆風が吹くリスクが高まっています。

5月は中旬まで4月暴落の反動でリスク資産が上昇する動きなっていました。流れが今月中旬あたりから変わってきています。

テクニカルで見てもじわじわと円高が進行し、ほとんど戻してきません。

週足でもドル/円は陰線が2週連続しているため円高トレンドが続く可能性があります。

値ごろ感からドル/円を買うのは危険なので、しっかりと底打ちを確認するまで慎重になった方がよさそうです。

そして、もう1つの懸念は日米ともに長期金利が上昇してきていることです。

日本の長期国債の需要が減少し、先週行われた20年債入札も弱い結果になっており、今週の40年債入札も警戒感が出ています。

日本の生命保険会社などに含み損が出ており、さらなる長期金利の上昇は日本経済にとってマイナスです。日本の長期金利上昇による円買い・ドル売りの動きも注意がいります。

また、米国では財政問題が再び持ち上がっており、米国債の格下げによる財政悪化と米トリプル安(債券売り・株売り・ドル売り)の不安もあります。

ということで、マーケットは不安材料が多く、悪いニュースに反応してリスク回避の動きが加速する心配があります。

ドル以外の相場も関税交渉次第では大きな動きが出るかもしれません。特に、EUと米国との交渉が上手くいかなかった場合、ドルもユーロも不安定な動きになるかもしれないためポジション管理は徹底しておきたいです。

26日は米国が戦没者追悼記念日(メモリアル・デー)で休場。

## ● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週のドル／円はほとんど戻すことなく緩やかな円高の動きが続きました。

週の初めには145円台だったドル／円は142円台まで下落して取引を終えています。

上値が144.5円を超える動きが出ると、5月中旬高値148.6円から引いたレジスタンスライン(上値抵抗線)を超えてくるため、さらなる上昇が期待できそうです。

下値は142円を割り込むと4月下旬につけた139円台後半まで下がるリスクが出てくるため注意がいらいます。

### <気になるクロス円>

クロス円も先週は週足で陰線となっているペアが多く、今週も下落リスクを警戒した方がよさそうです。

米国との関税交渉などのニュースで大きく動くペアもあるかもしれないためニュースもしっかり見ておく必要があります。

南アフリカと米国との会談は、トランプ大統領が南アフリカで白人農民が虐殺されていると言い、話し合いは上手くいきませんでした。

ランド／円は週足で見ても頭打ちのようにも見えるため買う場合は下がってくるのを待った方がよさそうです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇／円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル？>

日本では5月東京都区部消費者物価指数、4月鉱工業生産などがあります。

米国では4月耐久財受注、3月ケース・シラー米住宅価格指数、5月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、5月リッチモンド連銀製造業指数、FOMC議事要旨、1-3月期GDP(改定値)、前週分新規失業保険申請件数、4月住宅販売保留指数、4月個人消費支出(PCEデフレーター)、5月シカゴ購買部協会景気指数、5月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州では、ユーロ圏でラガルド・ECB(欧州中央銀行)総裁発言、ドイツで5月消費者物価指数などがあります。

ほかには、ニュージーランドと南アフリカで政策金利、カナダで1-3月期GDP、3月GDPの発表などがあります。